

ダルニフォーラム

第四十五号
2023年6月

www.edfthai.org/jp

2023年3月に卒業した奨学生からのお礼

ご支援を頂かなければ私は、ここまで勉強を続けることはできませんでした。

EDFを通して皆様から奨学金を戴き、今年3月に卒業した学生が数千人もいます。今回自分への奨学金提供者宛に、卒業にあたり感謝の手紙を書いた卒業生の文章を抜粋してご紹介します。ご一読いただきたいと思います。



ティラポーンさん
ブリラム県ナンローン高等専門学校を卒業しました。

私は、五人兄弟の末っ子ですが、兄弟の中で私だけが唯一教育を受ける機会を得ています。今、私がこうして勉強を続けられるのは教育奨学金を支援して頂いているお陰です。私の両親は、私がまだ小さい頃に離婚しました。でも、私には、私や兄弟が家族の愛情や家庭の暖かさに決して飢えない様にと親身になってくれた祖母がいます。祖母は、決して私達を見放すことなく、他の恵まれた家族ほどとはいきませんが、食事をはじめ何の不自由もないようにと私達の日々の暮らしを支えてくれました。でも、家族である両親のことも決して忘れてはなりません。私は、家族全員の期待を背負っています。だから勉強に励み困難にも立ち向かわなければなりません。家族の期待のお陰で私は、とても強くなれ自分の夢を追いかけることができます。これからも自分の夢そして家族のためにも一生懸命に勉強に励みたいと思っています。

私がここまで頑張りが続けたことができたのも私の恵まれぬ境遇を理解してくださり中学一年生から高等専門学校を卒業するまでの6年間もの間教育奨学金を支援してくださった方のお陰です。私は、心から感謝しています。どうもありがとうございました。ご支援頂いた教育奨学金は、授業料、制服代等に使用させて頂きました。高等専門学校卒業後は、家族のためにまた、将来の自分の更なる進学のためにも仕事に就き働く予定です。もし、教育奨学金のご支援を頂かなければ、私は到底こうしてここまで勉強を続けることはできませんでした。今後は社会に貢献できる様に自分がこれまで考えてきた通りに一生懸命に働きます。最後にもう一度、心からの感謝をお伝えしたいです。これから一生懸命に働きご支援者の皆さんの様に慈悲深い人になりたいです。本当にどうもありがとうございました。



セーンティエンさん
ブリラム県ノンキーピッタヤーコム高校を卒業しました。

私は「どのように生まれるかは選べないが、何をするかは選べる」と信じています。私は財産が十分でない家族に生まれましたが、勉強をして知識、能力、知性を得て、良い暮らしをしたいです。両親は日雇いの仕事をしており、定職はありません。仕事の依頼があったら働きます。1日の賃金は200~300バーツ程です。両親の収入は家族の支出や私の教育費には足りないこともあります。お金が足りないと、両親は親戚からお金を借りて、私を学校に行かせてくれます。学校が休みの日は、私も仕事に行き両親を手伝い、少しでも収入を増やして、両親の負担を軽くするよう頑張ります。奨学金をいただくようになってからは、お金が不足して登校できなくなることはなくなりました。以前は機会に恵まれなかったのが、機会を得ることができて、生活が上向き、家族の金銭的負担を減らすことができました。そして中学校、高校で学ぶ機会を持つことができました。高校を卒業したら、より良い生活、機会のために大学に進学したいです。そして夢を叶え、高い目標を目指し、社会の役に立ちたいです。ご支援者様には奨学金で中学、高校の各3年間を支えてくださり、心より感謝しています。ご支援者様のご健勝、ご活躍をお祈りしております。

「教育の機会」のご提供でこのような子供達に対し、大きな励ましとなり、学習や人生における様々な困難を彼らが自ら乗り越えていく強さを身に付けることができます。是非ご支援のご検討をお願いします。2023年度の募金受付は2023年6月30日までです。皆様の暖かいご支援・ご協力をいただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶

皆様のご支援は子どもたちにとって明るい将来へと導く光のようです。

5月中旬から2023年度の新学期が始まりました。EDFでは奨学金振込のために、就学状況や奨学金申請者の書類等の確認を開始します。2023年6月1日時点で9,753名の申請に対し6,613名分のご支援が集まり、残り3,140名の子どもたちが、皆さまからのご支援を待っています。

多くの方々は、奨学金がなければ子どもたちの就学は継続可能か、疑問をお持ちではないでしょうか。学期の始めは保護者が仕事をしたり借金をしたり、必死にお金を工面して子どもや孫を通学させます。もし奨学金がないと、進学しても学校中退のリスクがあります。両親が離婚した場合や、両親に見放されて高齢の親戚が養育している場合等、「絶対的貧困」と呼ばれるグループの子ども的人数は少なくないだけに、中退のリスクが高いのが現状です。入学後お金の用意ができなくなり、最終的には学校を中退して、家族を養うために仕事をしたり、あるいは不当労働に誘われたりするケースもあり得ます。学校中退により将来の国を支えて行くべき人材を育成する機会を失ってしまうことは極めて悲しく残念なことです。

これまでの36年間、財団の奨学金事業ではご支援者様からの教育への暖かいご支援を、当財団スタッフ一同は誇りと喜びの気持ちで、機会に恵まれない45万人以上の子供達に届けて参りました。奨学金の金額自体はそれほど高額ではないかもしれませんが、ご支援者様から贈られる機会は、多くの子どもたちにとって、暗いトンネルの出口を照らす、将来へと導く明るい光のようで、大きな人生の転機となると言えます。皆さまからのご支援は、子供達が学校を卒業するまで通学する励ましとなり、将来希望する仕事に就くための知識をもたらします。

ご支援を検討いただくのに、まだ十分な時間がございます。ご支援によって、家族の貧困への心配を軽減し、自信を持って就学を継続する力となり、様々な人生の困難に挑み、強く乗り越える励ましとなります。

本年度の奨学金の募集は、2023年6月30日までとなっております。本紙にある「奨学金申込書」やwww.edfthai.org からオンラインでご寄付の手続きが可能です。

ご支援を待ちわびている子どもの声を届けるため、ご友人、お知り合いの方々へもこの奨学金制度をご紹介いただければこの上もない喜びです。

何卒よろしくお願い申し上げます。



EDF 財団 代表取締役

サンペット・ニンラット

SNSのお知らせ

支援者・協力者の皆様とのより速く情報のご提供のために、EDFが下記のようなソーシャルメディアを活用させていただいております。どうぞフォローをお願い申し上げます。

